

## V227b ひとみ望遠鏡の性能評価の進捗

溝口小扶里, 松下真人, 土佐誠 (仙台市天文台)

仙台市天文台には、口径 1.3m のひとみ望遠鏡がある。ひとみ望遠鏡には撮像用冷却 CCD カメラと中分散分光器、眼視用装置が設置されており、これまで、それぞれの装置について性能評価を行ってきた。

カセグレン焦点に設置されている撮像用冷却 CCD には U,B,V,Rc,Ic,C2 など 11 種類が備え付けられており、様々な観測に対応できるようになっている。現在、散開星団 M67 を観測し、B,V,Rc,Ic フィルターに関して色変換式の変換係数を求めている最中である。

また、ナスミス分光焦点に設置されている中分散分光器には、2 種類のスリット (2 秒と 1.35 秒) と 3 種類のグレーティング (低分散モード: 600 本/mm、中分散 5000 モード: 1,714 本/mm、中分散 6500 モード: 1,800 本/mm) がある。全 6 種のセッティングで、中心波長をグレーティングのブレイズ波長に設定し、昨年未測定であったセッティングも含めて、それぞれの波長分解能を測定した。その結果、ブレイズ波長における波長分解能は、2 秒スリットの低分散モードで  $R \sim 1300$ 、中分散 5000 モードで  $R \sim 3900$ 、中分散 6500 モードで  $R \sim 5300$ 、1.35 秒スリットでは各モードで  $R \sim 2700$ 、 $R \sim 8700$ 、 $R \sim 9900$  となり、設計値よりも高い波長分解能を得られることを確認した。

本講演では、新たに行った性能評価の進捗と今後の観測の展望について発表する。